

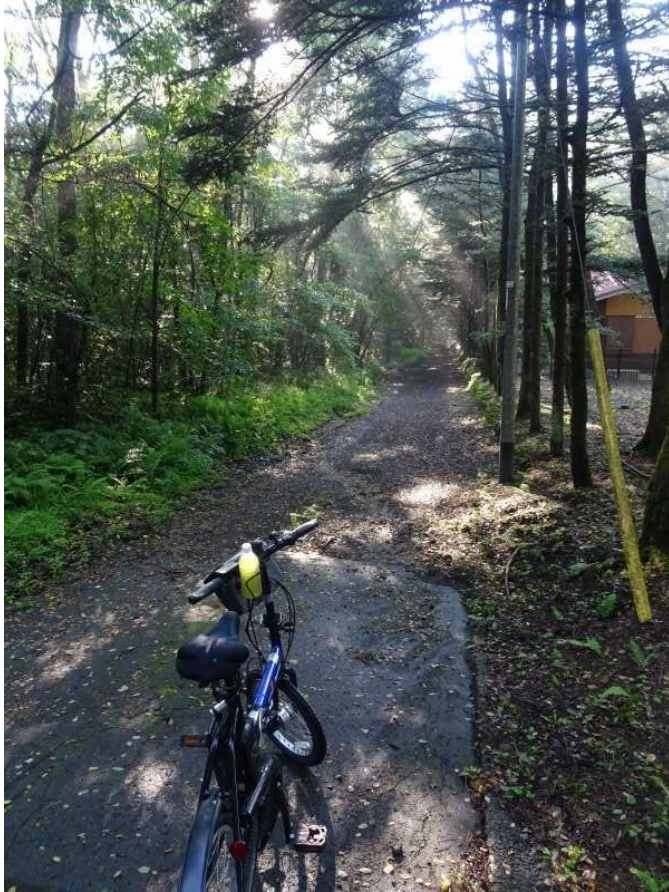
「日々の理科」(第1881号) 2019,-9,-2

「天使のはしご(5)」

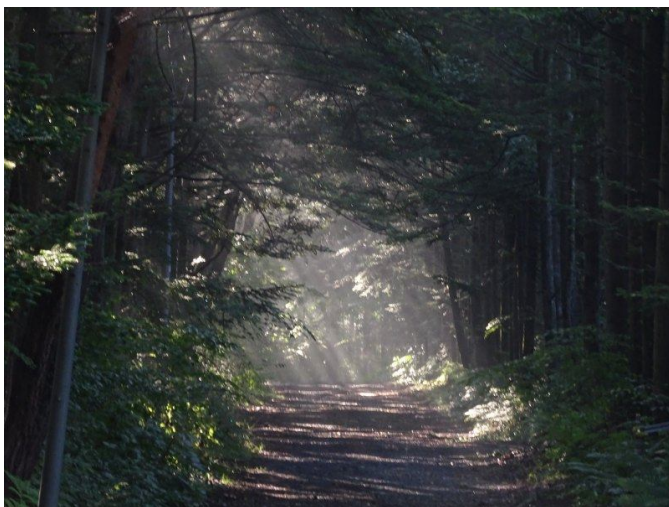
お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

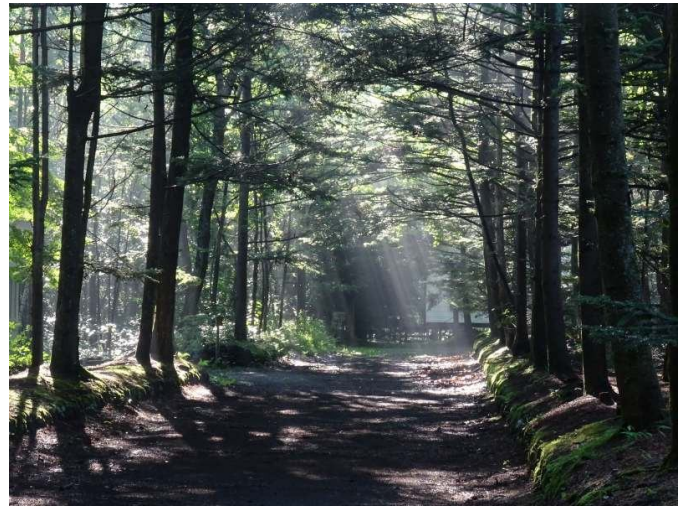
田中 千尋 Chihiro Tanaka



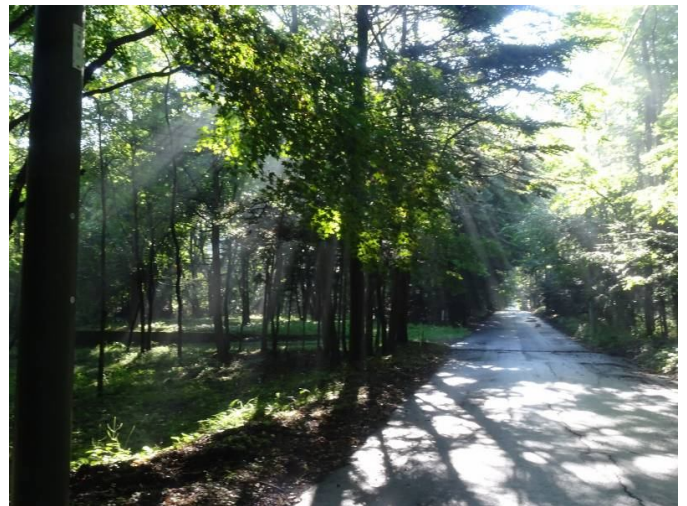
8月下旬の早朝、私は北軽井沢のあちらこちらを、さまざまな「天使のはしご」を探して、自転車で走り回っていた。これは楽しいサイクリングになった。



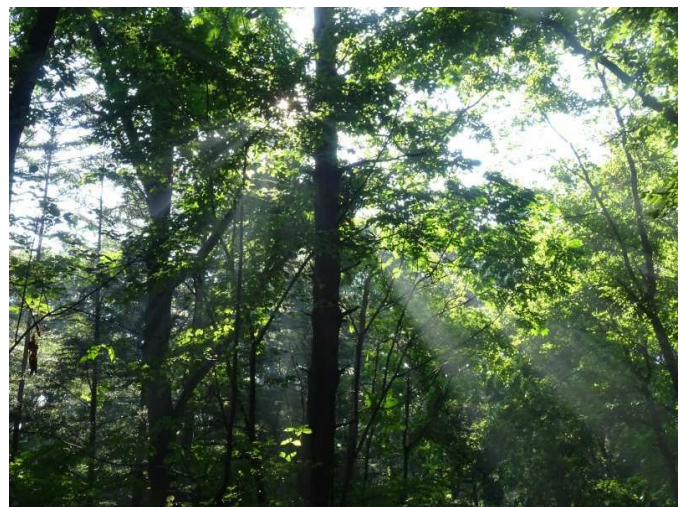
「天使のはしご」にもさまざまなタイプがある。これは、別荘地の道の少し奥まったところに差した光芒。周囲が暗いので、はっきりした光軌を描いている。



これは、比較的明るい林に現れた光芒。一筋の光芒なのだが、その中に濃淡があって面白い。木々の葉の重なり具合の差が、この造形を生み出したのだろう。



放射状の光芒に出会うこともある。太陽が正面にあって、その実体(光球面)が幹などで隠れている場合、このように放射状の光芒になる。



子どもがよく描く太陽は、こういう形だ。太陽光線は平行なはずなのに、実際の放射状に見えるのは不思議だ。興味の尽きない朝のサイクリングだった。